

第39回 DAAS運営委員会 議事要旨

日 時：2019年11月13日(水) 14:00～16:00

場 所：株式会社山下設計 東京本社会議室
東京都中央区日本橋小網町 6-1

1. 出席者（順不同）

運営委員長：本多委員（山下設計）

委 員：三塩委員（日本設計）、豊原氏（公財）建築技術教育普及センター）、
原田委員（住団連）、阿部委員（BCJ）安生委員（日建設計）、森山委員代理 小
野寺氏（学会）

事 務 局：武藤

2. 配布資料：

資料1 第13期事業報告(案)

資料2 第13期決算書(案)

資料3 打合せ報告(第15期からの体制変更について)

資料4 第15期からの新体制について

資料5 第14期予算(案)・事業計画(案)・スケジュール(案)について

資料6 第14期新規事業について

別紙1 第38回 DAAS 運営委員会議事要旨

3. 議事：

[報告事項]

- ・ 第13期事業報告(案)
- ・ 第13期決算書(案)
- ・ 打合せ報告(第15期からの体制変更について)

[検討事項]

- ・ 第15期からの新体制について
- ・ 第14期予算(案)・事業計画(案)・スケジュール(案)について
- ・ 第14期新規事業について

■ 報告事項

[第13期事業報告(案)・第13期決算書(案)]

資料1、2に基づき第13期の事業報告(案)および決算書(案)について事務局より説明を行った。決算(案)についてはすでに会計士の確認を終えており、次期総会前に例年通り、監事の監査を受ける予定であると口頭で説明した。

〔打合せ報告〕

第 13・14 期の運営に関する打合せ報告とその内容を資料3に基づき事務局より説明した。

■ 検討事項

〔第15期からの新体制(案)について〕

資料4 新体制(案)について事務局より説明をした。特に事業縮小内容と新規に設定する賛助会員(案)および第 14 期、15 期のスケジュールについては口頭にて補足説明をした。併せて資料6の新規事業を説明した。

〔第14期 新規事業について〕

DAAS-Web サイトのシステムを提供・共有する新規事業について資料に基づき説明を行った。金沢工業大学でのテスト運用を計画し同大学より了解を得ていること、また、簡易版の制作を進めていることも付け加えた。

【以下質問・意見、等】

(三塩委員)事務局会議では、全ての業務を書き出した事務局業務一覧を元に、今後継続する業務のみ残したところ全体の1/5となった。詳細は詰めていく必要があるが、その他、総会・委員会運営については、今後大幅に簡略化して行うことにより費用と人員の縮小が出来るかと判断した。第14期前半の補助金事業でのコンテンツ制作が終了後、この1/5の規模に業務を縮小し、第15期の引き継ぎに向けて縮小体制を整える方向で検討した。

(本多運営委員長)コンソーシアムという形式を継続するということについて、委員の皆さんには理解をいただけるのではないと思われるが、団体会員を中心とした運営、賛助会員枠などこれについて団体会員の意見はないだろうか。また、公財)建築技術教育普及センター井上理事長には先日の打合せで前向きな意見をいただいたが、事務局を置くことについて、懸案事項等はないだろうか。

(豊原氏)現在はこの話をどう消化していくかという段階であり、具体的には計画しているわけではないが、来年度の予算等と併せて年明けくらいから具体的な検討を行うと思われる。話はすでに確認しているのでうまく調整するよう考えているところである。

(三塩委員)DAASの会費は突出した金額で常に社内で問題になっていた。賛助会員枠を設置するという件は、建築業界の枠を超えて広くDAASの活動に賛同を得られないか、というところで提案をした。出版社、教育機関、メディア、メーカーなど、会員の裾野を広げるという意味で、金額も3～5万という設定をして広く会員を募れるようにしようというところである。今後新体制での「200万」という基本費用に、少しプラスとなる要素を残しても良いのではないか。当社の様な組織事務所は、国土交通省の声がけで入会した経緯があるが、そのような枠にとどまらず、もう少し個人の事務所や中小の事務所が参加する機会を広げる。写真を掲載したいという事務所もあるかもしれない。そういったところへ門戸を広げるという意味も込めた提案

である。公財)建築技術教育普及センターにも相談しなければならない点ではあるが、今後のために可能性を残しておきたい。仙田理事長が代表をしているNPOの活動なども仙田理事長から話が出ると思われる。NPOが参加しやすいような枠を用意しておけば、協力しやすいのではないかと期待を持って体制づくりの一つに加えた。

(阿部委員)第15期からは新規コンテンツ事業は廃止ということではあるが、賛助会員の会費支援が増額することによりコンテンツ制作を行うということもあるのだろうか。

(三塩委員)DAASコンソーシアムの組織を維持するにも200万という予算はかなり削減した費用であり、賛助会費により余剰が出て、費用の積立ができる場合は、数年に一度コンテンツ制作をする可能性としてあるかもしれない。ただし、国庫補助金は交付されない以上、現場コンテンツ制作事業を継続ができるとは言えないと考えている。

〔第14期 予算(案)について〕

予算(案)に基づき事務局より説明を行った。今後の新体制、予算・事業縮小にあたり事務局職員は退職とし、退職金規定に基づき、退職金を確保する場合の予算案を検討していることを補足した。今後も事務局会議では予算案の検討を行い、総会に提出する予算(案)は次回運営委員会に諮る旨口頭にて説明した。総会は2月に予定しているため、1月に運営委員会を開催予定であることも加えた。

【以下質問・意見、等】

(事務局)企業会員の委員の方は今回示した新体制について、どのような印象だろうか。

(安生委員)大枠賛成ではあるが、仮に賛助会員として会費を支払う場合、今後もDAASの事業は発展性が求められる。写真の運用・維持・保全以外に、新規保全ができなければ、賛助会員の継続や新規会員を集めることも難しいのではないだろうか。団体会員は表彰事業を行なっている。例えば、学会賞、JIA賞、環境建築賞、等をDAASのフォーマットで提出して掲載するというのではどうだろうか。ユーザー側として、表彰作品を各サイトで検索を行っているが、それぞれツリー構造が違い探しにくい。DAASフォーマットで検索できればありがたい。心配な点は、団体会員が引き続き会員を継続してもらえるのかどうか、ということである。

(阿部委員)総会前に団体会員へ事前の確認はあるだろうか。すでに1団体退会希望があるということなので、なし崩しで退会とならないか気になっている。各団体にはまだ伝えていないということだろうか。

(事務局)まだ伝えていないと思われる。調整をした担当官が異動になり、再度相談する必要がある。

(本多運営委員長)確認する。

(三塩委員)次回運営委員会までには、「各団体に伝えた」ということを確認しておきたい。委員や事務局から団体会員に交渉するわけにはいかない。国交省に依頼しなければならない点である。

- (事務局)表彰事業の件であるが、日事連賞は団体にフォーマットを送り年度ごとに対象作品を追加収蔵している。今後、システム自体を渡し、入力してもらい、DAASから横断検索をかける、等実現出来ればと思っているが、システム共有には、サポートが必要なので、調整の必要がある。
- (安生委員)企業はそれぞれシステムを構築しているが、変換をすればデータの移行ができるということもある。著作権の問題さえ調整できれば、資料が提供できるのではないかと考える。そうすれば賛助会員も集めやすいだろう。
- (三塩委員)会費よりもデータを提供するという「実」が増えていくということも効果的である。
- (事務局)事業が縮小する中でどう実現するかというところであるが、webの制作会社の方でシステムを展開してもらい等、検討したい。
- (三塩委員)Webの維持と併せて、外注枠の中に入れられればよいのではないかと。
- (事務局)そのように考えている。システム展開をする場合も有償にした方が事業を回せるのではないかと考えているが。金沢工業大学も大きな金額は出せないであろう。その方法を検討したい。
- (本多運営委員長)本日の議事は以上である。前回の議事要旨を確認いただき、次回委員会についてはメーリングリストでお知らせする予定である。
- (三塩委員)次回の委員会は大変重要な回になることをうまく伝えるべき。今まで協力をした企業会員に出向いて説明をするなど「最後、大事な回なので」というだけでなく、今後の方針については、行き渡った方がよい。
- (事務局)総会は事前に資料をお送りするが、運営委員会では事前に資料は送付していない。
- (三塩委員)総会は形式的。こういった議論の場が重要である。賛助会員等で、今後もDAASを盛り立てていくことの合意なども確認したい。14期後半で会員を回るという案もある。次回運営委員会はこれまでとは意味合いが違ふと思われる。
- (事務局)今までの協力いただいた会員を集めて何かイベントを行うという案もあった。
- (三塩委員)それはまた検討したい
- (阿部委員)今日の資料は欠席の委員へ配布されるのだろうか。まずそこで今日の資料の内容を確認してもらい、次回運営委員会で意見をもらった方がよいと思われる。
- (豊原氏)次回2月の総会は、臨時総会という位置付けだろうか。
- (本多運営委員長)前回の8月も年次総会であり、次回2月も年次総会という位置付けである。
- (三塩委員)前回の総会は理事長の入院等で開催が遅れていた。臨時総会を第14期の最後、ということも計画していたが、臨時総会の必要はなく、年次総会として開催すれば良いのではないかと意見をいただいた。
- (豊原氏)そういう意味で次回運営委員会が重要である、ということだろうか。規約の改正も決めなければいけない。
- (三塩委員)最後の臨時総会の開催は書面で行う、ということでもよいだろうか。

(事務局)そのためにもまずは書面での開催等、規約改定が必要になる。

以上